

【事業実績】

1 しかける 「プロジェクトをうごかす組織づくりとネットワークの構築」

(1)「みんなのキンビ研究会」の実施

国内外で先進的な取組を展開している講師を招聘し、秋田県の抱える課題解決の方策や、これからの美術館の在り方について、アートや福祉、教育、産業技術など、様々な分野の方と共有し、検討した。

【第1回みんなのキンビ研究会】対象：一般市民

日 時：7月14日（日）13：30～16：00

講 師：東京藝術大学 社会連携センター 教授 伊藤達矢氏

テーマ：ミュージアムから生まれるアートコミュニティ

参加者：24名（内キンビコミュニケーター14名）



講演会とグループディスカッション

【第2回みんなのキンビ研究会】対象：一般市民

日 時：9月14日（土）

10：30～11：30：高齢者（認知症当事者含む）との対話を通じたアート鑑賞プログラム

13：30～15：50：講演及びグループディスカッション

講 師：一般社団法人 ArtsAlive 代表理事 林 容子氏

テーマ：「認知症のための非薬物療法としての対話型鑑賞「ARTRIP」の実践とその効果」

参加者：アート鑑賞プログラム体験7名、見学13名／研究会17名

【第3回みんなのキンビ研究会】対象：鑑賞支援ツール作成メンバー

日 時：10月24日（木）14：00～16：30

講 師：跡見学園女子大学 教授 茂木一司氏、

星美学園短期大学日伊総合研究所 大内 進氏

宮城教育大学 准教授 梶原千恵氏、

一般社団法人秋田県視覚障害者福祉協会 高橋順子氏

テーマ：鑑賞を支援するツールを作成することの意義



鑑賞プログラム



グループディスカッション



鑑賞支援ツールについての講義とレビュー

(2) キンビコミュニケーター講座

美術館、博物館が年齢や障害の有無等にかかわらず、生涯を通じてアートを楽しむ場としての役割を担うことができるよう、人と作品、人と人を結びつける「キンビコミュニケーター」の学びの場と実践の場を提供することを目的とした講座。高校生から70代までの26名が参加し、「誰もが美術館で楽しむためには」をテーマに全9回の講座を実施。4つのワークショップを企画、実施した。

<キンビコミュニケーターの声>（抜粋）

- ・考え方が違うからこそその楽しさが感じられた。アートの楽しさを誰でも感じられるようにしたいと思った。
- ・誰もが美術館を楽しむためには敷居を下げればいいという考えが変わり、いろいろな人と一緒に作品を見る場をつくり、見る力をつけることが大切だと思いました。
- ・美術館は来てもらうのがゴールと考えから、美術館にきてもらい、そこから何かを皆で作れるような活動をしたいと思いました。
- ・本講座を受ける中で、自分と美術館、芸術、地域との関わりについて考え、美術館を開いていきたい、自らも芸術をより積極的に楽しもうと前向きになりました。



テーマに沿って熟議を重ねた



企画の一つ、視覚障害者との鑑賞会

2 うごかす「地域との協働アートプロジェクトの実践」

(1) 認知症や高齢者を対象としたアート鑑賞プログラム

ファシリテーターに一般社団法人 ArtsAlive 代表理事林容子氏を招聘し、認知症や高齢者、その家族・介護者を対象としたアート鑑賞プログラムを6回実施した（当館を含む美術館で3回、高齢者施設等アウトリーチで3回実施）。

<参加者（家族、介護者含む）の声>

- ・美術館に親近感がもてた。豊かな気持ちにさせられた。
- ・話しているうちにイメージが膨らんできたり、昔のことを思い出されたりする様子が見て取れた。普段されない話（聞いたことがない話）もされていた。
- ・終わった後も思い出話をされて楽しそうだった。「疲れた」とのお声があり、その晩は皆さん早めに休まりました。
- ・外出するには調整が難しいところ「美術館がやってくる」体験は嬉しいことでした。ありがとうございました。

高齢者施設での鑑賞会

(2) 不登校など社会的に孤立しがちな子ども・若者を対象とした「キンビ美術部」

小学生から高校生までの23名が参加し、秋田公立美術大学教授 安藤郁子氏、秋田公立美術大学大学院 1年 藤原櫻和子氏のファシリテーションのもと、創作ワークショップや県立博物館等を活用した創作体験・鑑賞学習を7回実施した。（個人情報保護の観点から写真の掲載は控える）

第1回「すきなことを教えて」

各教室等へ出向き、児童生徒との関係構築を目的としたアート活動



第2回「ミュージアムトリップ①～県立美術館へ行こう～」参加者：25名（内引率4名）

日時：9月18日（水）9：20～15：30／会場：秋田県立美術館、秋田市文化創造館（交通手段：貸し切りバス）

内容：企画展等の鑑賞（ギャラリートーク：県立美術館 学芸員 小泉俊貴氏）、昼食、交流

第3回「土でつくろう①」参加者：18名（内引率4名）

日時：10月1日（火）9：20～16：00

会場：秋田公立美術大学（交通手段：貸し切りバス）

内容：学内見学、粘土制作

第4回「土でつくろう②」参加者：13名（内引率2名）

日時：10月31日（木）9：20～16：00

会場：地蔵田遺跡（秋田市）（交通手段：貸し切りバス）

内容：制作した作品の野焼き、草などでの描画

指導者：野焼きボランティア、県立博物館職員

秋田市観光文化スポーツ部文化振興課職員

第5回「土でつくろう③」参加者：21名（引率3名）

日時：11月7日（木）9：30～12：00／会場：当館

内容：土や炭等の自然素材で大画面描画（共同制作）

第6回「土でつくろう④&ミュージアムトリップ②」

参加者：28名（引率5名）

日時：12月20日（金）9：30～12：00／会場：当館

内容：様々な画材で大画面描画（共同制作）、特別展鑑賞

第7回「展示に挑戦」参加者：25名（引率5名）

日時：2月4日（火）10：30～12：00／会場：当館

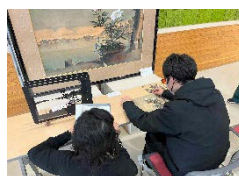
内容：「笑う！はひふへ展」への展示作業

（3）アートを通した学校等との交流

アートを通した学校等との交流として、県立横手支援学校と県立増田高等学校との交流及び共同学習の取組、あきた総合支援エリアかがやきの丘（視覚支援学校、聴覚支援学校、秋田きらり支援学校）への出前美術展（地域の方との粘土によるワークショップ）等を行った。



横手支援学校と増田高等学校との交流



当館所蔵作品8点を展示。視覚支援学校、聴覚支援学校、秋田きらり支援学校と地域の方との粘土によるワークショップを実施。

（4）産業、福祉、教育など多様な機関が開発・展開する「鑑賞支援ツール」

今年度は新たに秋田協同印刷株式会社、一般社団法人秋田県視覚障害者福祉協会から協力を得ることができ、5回の検討会、視覚障害当事者のレビューを実施した。令和5年度に秋田県産業技術センターが作成した当館所蔵作品《不忍池図》を題材とした3D絵画「さわってみる絵」の改善に加え、ジオラマやパネル、スタンプなど新たな鑑賞支援ツールを3種類作成し、ワークショップを4回実施した。

（5）プロジェクト成果展「みんなのキンビ展」の開催

プロジェクトの成果を紹介する「みんなのキンビ」プロジェクト企画「笑う！はひふへ展」を開催した。昨年度に引き続き、澁谷デザイン事務所の澁谷和之氏がトータルディレクションを担当し、誰もが楽しみ、地域や人とのつながりを感じることが出来るテーマに「笑い」を設定し、触る、聞く、嗅ぐ等、多様な感覚で楽しめる16コンテンツで会場を構成した。作家や障害のある方、デザイン会社など様々な方と協働でつくりあげた展覧会となった。

【会期】2月8日（土）～3月9日（日）【会場】秋田県立近代美術館 5階展示室



鑑賞支援ツールを活用したワークショップ



キンビ美術部の生徒は自身の作品を自分たちで展示



オープニングイベントとして認知症や高齢者を対象としたアート鑑賞会の実施



横手支援学校と増田高等学校の福笑いは、来場者が自由に遊ぶ作品



描くことで、障害のある方の作品の世界観を共有するコーナー



地元蕨の会による蕨の道具と所蔵作品の展示。香りも楽しむ展示

3 のこす～プロジェクトのアーカイブ化と公開

記録映像の製作と公開、コミュニケーターやプロジェクト参加者によることばの収録、HPの連動する報告書の作成に取り組んだ。

4 ふりかえる～評価とフィードバック

2回の実行委員会を開催（①「計画の策定と評価方法、目標の共有」、②「評価とフィードバック、次年度に向けた改善策提案」）し、発展的で継続的な協働を目指し、プロジェクトの具体的方策についての共有及び評価を行った。